評者：六角僚子　東京工科大学医療保健学部看護学科教授

『見てできる　褥瘡のラップ療法』

最新のケアとしてのラップ療法を知るための入門書

編著：水原章浩／定価：1,890 円（本体 1,800 円＋税 5%）
発行：医学書院／ TEL：03-3817-5657

一昔前は，褥瘡をもつ患者への処置は，①生理食塩水でごしごし洗い，②お天気のよい日は部位を日光に当てるかドライヤーでしっかりと乾燥させ，③イソジンで消毒しガーゼを当てる……，これが通常のケアでした。そんななか，4，5 年前から耳にするようになったのが本書のタイトルである「ラップ療法」です。簡単に治せる，手軽に治せる，コストもかからず誰にでも治せる，施設では大流行というような噂。何となく疑わしい怪しそうな療法と，私自身が決めつけていたところがありました。

今回本書を手にして，まず写真がたくさんあり，言葉も端的で非常に読みやすいという印象をもちました。これには「ラップ療法を実際に施行する看護師，介護者の目線で，ラップ療法をわかりやすく解説する」という著者らの意図が表れています。先に紹介されている創傷治療の原則，アセスメントの重要性は褥瘡に向き合う多職種に必要な基本的な知識といえますし，紹介されている事例は，丁寧に実践を積み上げてきたことを傍証しています。批判を受けながら，地道に事例を積み上げてきた結果が本書では実感できます。

本書で知りましたが，日本褥瘡学会で 2010 年 3 月に，条件付きではありますが，ラップ療法が治療法として認められました。しかし 2009 年の調査によると，一般病院などの医師の 5 割はラップ療法を認めているもののその認知度は一律ではなく，特に老人保健施設ではラップ療法施行に至らないケースも少なくない，これがラップ療法が浸透していかない要因であり，大きな課題であると著者らは述べていました。まず医師がラップ療法に対して正しい理解をして取り組んでいくことにより，在宅や施設の患者が救われることも多々あると感じます。

本書で何度となく提言しているのは，「①医師の指示のもとで行う，②患者・家族に十分な説明をする，③患者・家族の同意をとる」という施行条件です。ですから「誰でも簡単にできる」というのは実はただの噂で，正しい手順を踏んでの実践が求められます。またラップ療法の禁忌事項も明確にされているので，看護師・介護者が本書から学んだことを医師とともに活かすのに役立ちます。

筆者はデイサービスセンターを運営していますが，正しい手順を踏めば，センターの看護師が処置を行うことも可能となり，ほぼ毎日通所する利用者にとっては大きなメリットになります。医療と介護が両輪でケアを進めていけば，在宅でも施設でも効果的に褥瘡治癒が期待できるでしょう。看護教育の現場では，まだテキストに取り上げられていなくても，「ラップ療法」をエビデンスのある最新のケア情報，医療現場での課題として取り上げ，情報発信をしていきたいと思います。

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2011

0047-1895/11/¥250/論文/JCOPY

2026/09/13 21:21:33